

捕獲実施計画書

年度	振興局名	地域名
令和 7	渡島	北斗

【基本情報】

住所等	土地所有者	メッシュ番号
上磯、戸切地、八郎沼鳥獣保護区 中野通、三好、茂辺地、当別銃猟禁止区域 上記のほか、その周辺地域	北海道、北斗市、民有地等 ※ 国有林を含む国有地では実施しない	イ 444、 イ 541～イ 544、 イ 641～イ 644

【捕獲事業の目標】

北斗市では、エゾシカによる農業被害に加え、近年エゾシカによる交通事故等が増加している。特にエゾシカによる列車支障は近年急速に増加しており、人間活動に深刻な影響を及ぼしている。

北斗市内でのエゾシカ捕獲は主に銃猟により行われ、わな猟による捕獲は進んでいない。

当該地において冬期間を中心に個体数調整を行い、あつれきを低減するとともに、地域において捕獲のノウハウがないわな猟による捕獲手法を検証することを目標とする。

【地区の概況】

条 件		状 況
生 息 状 況		市街地付近の人工林内や河川の付近で目撃される事が多い。3月の残雪期に山間部に隣接する市街地付近の候補地を調査したところ、エゾシカによる食痕、足跡、新旧さまざまなフンなど多数の痕跡を確認したほか、当該地を横断する獣道も多数みられた。このことから、山間部に相当数生息すると見込まれる。
地 形		海岸付近はなだらかな河川と農耕地帯を含む市街地になっている一方、内陸側は起伏の激しい山林になっている。
餌 資 源 量		山間には広い山林が広がっており、下層植生や稚樹などを食料としていると推測され、農作物の作付けがある期間は農耕地帯へ出没し、いも、かぼちゃ、醸造用ぶどう、にんじん等の農作物を食害している。
周辺環境	希少動植物	上磯鳥獣保護区及び戸切地鳥獣保護区を内包するが、一般的に見られる鳥獣として記録されている希少鳥獣はない。また、希少植物について当該地域に生息しているという情報はない。
	人間活動	海岸に近い区域では新幹線、鉄道線、国道等が通行しているほか、市街地や農耕地に近い。鉄道線では青函トンネルを経由した本州との貨物輸送が盛んに行われている。一方、山間部では人間活動はごく小規模である。
そ の 他		北斗市では主に銃猟による捕獲実績があるため、指定管理捕獲事業としてはわな猟の手法検討とその有効性を確認するのがよいと考えられる。

別記第 4 号様式

【猟法・捕獲手法】

地形や周辺状況を勘案し、わな猟を基本とする。ただし、新しい猟法の提案がある場合は、銃猟の提案を妨げるものではない。

猟法（捕獲手法）	実施期間	場所	目標頭数	考え方
<div>                     手法、実施期間、場所はプロポーザル参加者の提案を受けて決定する。                 </div>			20	環境省が示したくくりわなの捕獲効率 0.02 (頭/日基) を使用し、目標頭数を計算。 目標頭数=0.02×900 日
				※ 提案の内容に応じ、規定の捕獲努力量は適宜変更した上で契約するものとする。

【実施体制】

- ・捕獲事業について、認定鳥獣捕獲等事業者その他環境省令で定める者に委託する。
- ・事業計画や事後検証について、関係機関からなる調整会議を設置し、意見交換を行う。

区 分	内 容
わな猟	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置期間は、提案の内容に応じ改めて設定する捕獲努力量に達するまでとする。</li> <li>・日に 1 回を基本として見回りを行い、出没状況や採食状況を確認し、必要に応じて誘因餌の補給や設置箇所の整備等を行う。</li> <li>・万一錯誤捕獲が生じた場合は、原則放獣する。</li> </ul>

【関係法令、規制等】

規制内容	根拠法令等	概要	申請先	備考
鳥獣の捕獲	鳥獣保護管理法 第 9 条	エゾシカの捕獲	不要	指定管理鳥獣捕獲等事業 実施計画の策定により捕 獲許可は不要
土地の使用（市有地）		工作物の設置	北斗市	
土地の使用（民有地）		工作物の設置	土地所有者	

別記第 4 号様式

【有効活用】

捕獲個体については、可能な限り食肉利用やペットフードなどへ有効活用することを想定する。  
道内でのエゾシカ捕獲数に占める有効活用の実績である 26%を目安として目標値を設定する。

〈受入可能な処理施設〉

区 分	対 象	主な搬出先	住 所
食肉活用	食肉に活用可能なもの	食肉活用またはペットフード活用あるいはその両方について、 プロポーザル参加者から搬出先の提案を受けるものとする。	
ペットフ ード	ペットフードに活用可 能なもの		
一般廃棄 物処理	上記に該当しないもの	クリーンおしま	北斗市館野 1 0 5 番地